

# 平和のメッセージ集 2021

「平和の鐘を鳴らそう 2021」に寄せられた原稿より

Peace for Tomorrow

広げよう思いやりと平和の心

2021年8月

広島ユネスコ協会編  
(平和・世界遺産部会)

# 平和のメッセージ集 2021 目次

(ページ)

- ご挨拶 広島ユネスコ協会 会長 松岡 盛人 . . . 1
- 1 分かりあうこと 広島大学付属高校生 稲垣 凜 . . . 2
- 2 What peace is 広島大学付属高校生 知久 遙 . . . 3
- 平和とは何か (上記日本語訳 知久 遙さんが翻訳) . . . 5
- 3 広島での平和の心  
24代高校生平和大使 比治山女子高校生 高橋 奈乃果 . . . 6
- 4 平和への道 ユネスコ大邱協会 会長 申東鶴 . . . 7
- (日本語訳 渡邊優子理事)
- 5 世界に向けて平和の鐘を鳴らそう  
広島ユネスコ協会 平和・世界遺産部会長 内田 一士 . . . 8

## 「平和の鐘を鳴らそう 2021」ご挨拶

「平和の鐘を鳴らそう」の活動は、毎年8月15日に、広島平和記念公園「平和の鐘」鐘楼前に集い開催することとしていますが、今夏は、天候不良及び新型コロナウイルス感染拡大により止む無く中止を余儀なくされました。

私ども広島ユネスコ協会は、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」というユネスコ憲章の理念のもと、「ヒロシマの心」を大切にしつつ、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を願い、草の根活動に取り組んでおります。

今年1月、核兵器の無い世界への実現を目指して、多数の国々の批准により核兵器禁止条約が発効しました。

しかし、世界唯一の戦争被爆国である日本が締約国に入らなければ核兵器禁止条約自体にパワーが生まれません。一刻も早く、締約国入りした上で、来年3月に予定されている第1回締約国会議に出席し、被爆国としての役割をしっかりと果たしていただきたいと思っております。

このたび、平和メッセージのスピーチを予定していた高校生3名の方から原稿のご提供をいただき、「平和のメッセージ集 2021」を作成しました。

また、ノートルダム清心中・高等学校合唱部の皆様にも、合唱の練習を重ねてご準備いただき、心から感謝申し上げます。

この機会に改めて、原爆・戦争犠牲者の方々を慰霊するとともに、戦争や核兵器の脅威の無い平和で持続可能な世界の実現を願い、それぞれ思いを込めて心の中で平和の鐘を鳴らしましょう！

2021年（令和3年）8月

広島ユネスコ協会  
会長 松岡 盛人

## 分かり合うこと

広島の上空に原子爆弾が投下され、たくさんの尊い命が失われたあの日から、76年という長い月日が経ちました。

今日までの時間が、被爆者の傷を癒すことはなく、未だに多くの人達が悲しみ、その被害を訴えています。

私は被爆をしていません。当時の惨状を見ていません。ですが、核兵器が、どれだけ恐ろしいものか、どれだけ多くの人を悲しませてきたのかという事を知っています。

小学生の時から、日本人として、そして広島県民として、教科書や被爆された方々から、原爆のもたらした被害の大きさを学んできました。平和記念資料館で見た、遺品の一つ一つが凄惨さを物語っていました。また、講演会で被爆者の方がおっしゃった言葉を忘れられません。

「体の傷が今でも消えない。ずっと心も苦しいままだ」。

肉が焼ける臭い、体の大部分を覆う火傷、水を求め川に飛び込みそのまま命を失った数々の死体。

想像するたびに、本当にあったことなのかと、改めて思うのです。

普段私たちが当たり前のように生活していることは、特別なことなのです。

原爆が人々から奪ったものは、被爆者たちの命だけではありません。育まれるはずだった未来の命も、消し去っているのです。

世界が平和になるためには、分かり合うことが必要です。

自らの正義を押し付け、相手の価値観を否定したままでは、互いに手を取りあうことはできません。将来、二度と同じ過ちを繰り返さないためにも、私たちは、8月6日に起きた出来事を正しく理解し、伝え続けることが大切です。

被爆者の平均年齢は上がり続け、原爆の恐ろしさを語る事が出来る人は限られてきています。だからこそ、今を生きている私たちが、自分には関係無いからと言って目をそむけるのではなく、平和のために向き合うべきです。

考え、理解し、伝える。

この3つを続けることが平和への一歩へと繋がります。

そして、思想、人権、貧富、民族など様々な違いを乗り越え、核兵器の無い世界を目指しましょう。

ご清聴ありがとうございました。

広島大学附属高校生 稲垣 凜

## What peace is

Hello everyone. My name is Chiku Haruka. I'm a high school student in Hiroshima.

It has been 76 years since the war ended. The burnt-out area, was full of dust, was lined with buildings, and it became a park with colorful flowers. However, these days, peace has been threatened again. Today, I would like to think again about what peace is.

76 years ago, Hiroshima was a hellish sight because the world's first atomic bomb was dropped.

At that time, it was a sudden death that I visited people who were about to start a new day. Some lost their entire families, and some babies died after not being able to live a day. Everyone was so desperate to live in the moment that they couldn't think about tomorrow. However, the feeling of people who were looking forward the people led the city to an amazing reconstruction, and now it plays an important role as a place to wish for world peace.

In January of this year, the United Nations adopted the Treaty on the Prohibition of Nuclear Weapons. However, Japan, the only country in the world to have suffered atomic bombings, has not ratified this treaty. Japan has a mission to pass on the sad history of Hiroshima and Nagasaki and make a peaceful world that people who feel sad not only by nuclear weapons but also by war. And it is the atomic bomb survivors who have passed on this until now. These days, the age of atomic bomb survivors has increased, and the opportunities to listen from them directly have decreased. I want as many atomic bomb survivors as possible to see a bright world without nuclear weapons. To that end, as a country that has suffered atomic bombings, we call for ratification of this Convention as soon as possible.

By the way, this year in Tokyo Olympics and Paralympics have been held. You know their alias, right? Yes, it is a "festival of peace". It is called so because the holding period is put into the state of the ceasefire even if there is a conflict. In relation to this, I'll introduce phrases from one movie about Olympics. <humanity dream once every four years. Can we end this created peace with a dream?> these suddenly hit me. Peace is made by

us. Also, although we hope a peaceful world, we might think that “peace = dream” somewhere in our mind, I thought.

After 76 years, the world has developed. We have institutions to help each other around the world, and COVID-19 has strengthened the unity of the world. Now is the time to act.

Change “=” into “≠”. “Peace ≠ Dream.” Peace is not a dream. We can make the world peaceful by ourselves. Join hands with the people of the world. This bell’s dome represents the universe. Let this bell resonate in the world as each person thinks about what he or she can do.

Thank you for listening.

CHIKU Haruka

## 平和とは何か

皆さんこんにちは。私の名前は知久遙です。広島の高校生です。

戦争が終わってから76年が経ちました。がれきだらけだった焼け野原にはビルが立ち並び、色とりどりの花が咲く公園になりました。しかし、近年、再び平和が脅かされる事態に直面しています。今日はもう一度「平和とは何か」を考えてみたいと思います。

76年前、ここ広島は地獄のような光景でした。世界初の原子爆弾が投下されたからです。

あの時、新しい1日を始めようとしていた人々に訪れたのは、突然の死でした。あるものは家族全員を失い、中には1日として生きられずに亡くなった赤ちゃんもいました。誰もがその瞬間を生きること必死で、明日のことなど考えることなどできなかったのです。

しかし残された人々の前を向く気持ちがこの街を驚くべき復興へと導き、今では世界平和を願う場として大切な役割を果たしています。

今年の1月、国連で賛成多数により採択されていた核兵器禁止条約が発効しました。しかし、世界唯一の被爆国である日本はこの条約を批准していません。日本には、広島と長崎の悲しい歴史を語り継ぎ、核兵器はもとより、戦争によって悲しい思いをする人をなくすという使命があります。

そして、今までそれを語り継いできたのは被爆者の方たちです。近年、被爆者の高齢化が進み、直接話を聞く機会も減少しています。1人でも多くの被爆者の方に、核のない明るい世界を見てほしい。

そのためにまずは、被爆国として、この条約への一刻も早い批准を求めます。

ところで、今年は東京で1年越しの五輪が開かれています。皆さんは五輪の別名を知っていますよね？

そう、「平和の祭典」です。紛争があっても開催期間は停戦状態にするため、こう呼ばれています。これに関連して、ある五輪映画の中の言葉を紹介します。〈人類は4年ごとに夢を見る。この創られた平和を夢で終わらせていいのであろうか〉これを読んだとき、私はハッとしました。

私たちは平和な世界を望んでいながら、心のどこかで「平和＝夢」だと思っているのではないかと思いました。

76年経って、世界は発展しました。世界中で助け合うための機関もでき、コロナ禍で世界の結束が強くなりました。今こそ、行動する時です。「＝」を「≠」に変えましょう。「平和≠夢」。平和は夢ではありません。

平和は、私たち人類の手でつくるものです。世界の人々と手をつなぎましょう。この鐘のドームは、宇宙を表しています。一人一人が、自分にできることを考えながら、この鐘を世界に響かせましょう。

ご清聴ありがとうございました。

広島大学附属高校生 知久 遙

## 広島への平和の思い

皆さんこんにちは、第24代高校生平和大使の高橋奈乃果です。

私たち高校生平和大使は、「微力だけど無力じゃない」という言葉を胸に、日々、核兵器廃絶に向けて活動を行っています。

76年前、1945年8月6日8時15分。一発の原子爆弾によって、広島は一瞬で地獄と化しました。

水を求めて川に飛び込み亡くなった人、皮膚が垂れ下がった人、目玉が飛び出して亡くなった人、家族を探し求めた人、多くの人が希望を失いました。

日常を失いました。

そして、原子爆弾によって亡くなった人の中には、子どもや女性たちなどがおり、戦争に関係のない人々が多く亡くなりました。

原子爆弾は、そのような戦争に関係のない人々の命も奪うものです。

また、今でも、原子爆弾から出た放射能の放射線による後遺症や、ひどい火傷のあとのケロイドなどにより苦しんでいる人がいます。

今、被爆者の方々の高齢化が進み、原爆の記憶が薄れつつあります。私たち若い世代でできることは、原子爆弾によって奪われたもの、命の尊さ、核兵器の怖さを多くの人に伝えることではないでしょうか。

私は、一人一人は微力だとしても、たくさん集まれば大きな力になると思います。

多くの人々が、原子爆弾によって奪われたもの、命の尊さ、核兵器の怖さについて考えれば、核兵器が地球上から姿を消す日まで燃やし続けられる「平和の灯」を消すことができるのではないのでしょうか。

私は、多くの人々に広島で起きたこと、核兵器の怖さを伝え、原子爆弾によって奪われたもの、命の尊さ、核兵器の怖さについて考えてくれる人を増やしていこうと思います。

広島への平和の思いをしっかりと伝えていきましょう。

第24代高校生平和大使 比治山女子高校生 高橋 奈乃果



## 平和への道

広島ユネスコ協会会長、会員の皆様こんにちは。

8月15日に76周年の終戦記念日を迎え、日本国国民ならびに広島ユネスコ協会会員の方々が、終戦後、今日まで76年間、世界平和実現のため国際社会に積極的に寄与されてきた努力に敬意を表します。

特に国民が自発的に参与する平和運動団体であるユネスコ協会は、民間活動を通じ、平和の精神を生活の中で持続的に実践する模範的な団体として知られています。

現在、世界は解決すべき多くの問題を抱えています。

新型コロナウイルスの大流行問題、国際社会における中国と関係諸国間の経済的・政治的問題、北東アジアの政治的・軍事的緊張問題、その他現代の各種社会問題等、多くの問題と直面しています。

こうした問題は、政府が努力すべき部分もありますが、効果的に解決をするには、民間活動の役割もやはり重要です。

新型コロナウイルスの拡散防止のため、政府がWHOや他国の政府と協力することも重要ですが、国民が自発的に努力し、予防を実践することがさらに求められます。

国家間の葛藤には政府の外交政策と協商が重要ですが、民間交流による国民の持続的な関係維持も必要です。特に社会問題の解決には政府の対策とともに、国民の自発的で積極的な参加が求められます。

広島ユネスコ協会とユネスコ大邱協会は、国際社会や国内で民間活動を展開し、ユネスコの平和の理念を実践することで、こうした問題を解決することに寄与しています。

平和を愛する心で個人と個人の出会い、対話と意思の疎通により互いに助け合い協力しています。国際的な民間交流で互いの尊重と理解、交流と協力、公益の増大を追求することで、世界平和の実現が早まると期待しています。

76周年の終戦記念日に際し、日本国すべての国民とユネスコのすべての会員が、平和の理念を生活の中で実践し、平和の道を持続的に作り行くことを祈念いたします。

2021年8月

ユネスコ大邱協会 会長 シンドンハク 申東鶴

(日本語訳 渡邊優子理事)

## 世界に向けて平和の鐘を鳴らそう

平和の鐘を鳴らそうは、原爆の悲惨な被害を経験し復興した広島から、戦争や核兵器、貧困のない平和な世界の実現を目標に 2000 年から取り組んでいます。

日本軍が 1941 年に、ハワイ真珠湾の米軍艦隊に攻撃して戦争を始め、周辺のアジアの国々に軍隊が進出し、現地の人々の権利を侵害しました。そして、米軍飛行機が 1945 年 8 月に広島市と長崎市に原爆を投下し、女性や子ども、高齢の方たちなど武器を持たない多くの市民や家屋等が悲惨で甚大な被害を受け、同年 8 月 15 日に終戦となりました。

76 年を経た現在の広島市と長崎市は、多くの人の尽力により復興していますが、原爆の後遺症によって苦しんでいる人々が、今なおいらっしやいます。

第二次世界大戦後、日本は軍隊を持たず、国際紛争を解決する手段として武力の行使はしないという平和憲法を制定し、戦争をしないで今日を迎えています。1951 年に日本は、平和を理念とするユネスコ（国連教育・科学・文化機関）に加盟しました。

2017 年に国連で 122 カ国・地域の賛成により核兵器禁止条約が採択され、その後 86 カ国が署名し、55 カ国が批准しました。この核兵器禁止条約は、今年 1 月に発効しましたが、日本はこの条約を署名も批准もしていません。

日本は戦争により被爆した経験が 2 度あり、核兵器による悲惨な被害の実相と非人道性をよく知る立場にありながら、核兵器禁止条約を批准しないままでよいのでしょうか。

多様な立場にある各国や地域が、対話をしながら核兵器を含む軍縮に取り組み、平和づくりを進める必要があります。日本は核兵器を保有しない国と核兵器保有国が対話できるよう橋渡し役となるべく、締約国会議へ参加してほしい。なぜなら、高度な科学技術も平和に利用されなければなりません。

ユネスコ憲章前文にある「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」との言葉を一人ひとりが自覚し、戦争が起こらないよう、平和な日常の暮らしを守り続けましょう。

私たちが平和を持続可能にするためには、異文化や民族、人種の違いを理解しあえる差別のない思いやりの心で、海外の人々や民間団体などと友好的関係を持つことがとても大切と思います。

広島ユネスコ協会 平和・世界遺産部会長 内田 一士